

交通事故のない社会を願って



9月19日、市民会館大ホールにおいて、交通安全市民大会が開催されました。この大会は、市民の交通安全意識の高揚と、交通事故防止を徹底することを目的に毎年開催されています。はじめに、交通事故犠牲者へ黙とうがさげられたあと、市内の小中学生から募った交通安全ポスターコンクールの表彰式が行われました。また、子ども・若者・高齢者世代の市民代表者より、市民として交通事故に遭わない・起こさないためにすべきことを確認すべく、交通安全宣言が述べられ、宣言に基づき行動していくことが確認されました。

悲願のメダルリオ五輪に向けて



第15回世界陸上競技選手権大会で男子50km競歩に出場し、銅メダルを獲得した谷井孝行選手が、メダルを手に市長を表敬訪問しました。市庁舎で行われた報告会では谷井選手から「苦しいこともあったが乗り越えることができた。継続していくことが力になるということを実証できた」と、これまでの競技人生を振り返りながら、今回のメダル獲得について喜びの言葉が述べられるとともに、来年ブラジルで開催されるリオ五輪で活躍し、メダルを手にして再びこの場所を訪れたいと、今後を見据えた目標や意気込みが示されました。

わくわくいっぱい児童館まつり



年に一度の子どもたちの祭典、「児童館まつり」が児童館とその周辺を中心に開催され、多くの子どもたちで賑わいました。会場では、足に履いたスリッパを飛ばし、その距離を競う「スリッパとばし」や、サイコロを投げ、出た目の数を競う「サイコロ数出し」、小さなあずきをお箸でつまみ、制限時間内に幾つ移せるかを競う「豆つまみ皿うつし」など、身体を動かしながら記録を競うチャレンジランニング大会や、体験工作教室、ヨーヨー釣りなど子どもたちが楽しめる出し物が数多くあり、会場は子どもたちの笑顔であふれていました。

芸術の秋に音楽はいかが



陸上自衛隊第10音楽隊による吹奏楽コンサートが9月27日に総合体育センターで開催され、市民1,200人がその音色を楽しみました。同音楽隊は、昭和34年に発足し、東海北陸6県の防衛・警備を担任する第10師団の音楽隊として、管内各地で演奏活動を行っており、滑川市でのコンサートでは「キラリンコンサート」と題してクラシック音楽やアニメソングなどが披露されました。コンサートは全3部構成となっており、2部では滑川中学校吹奏楽部の部員と隊員による合同演奏が行われるなど、迫力ある生演奏で来場者を楽しませていました。

タスキをつないでラン・ラン・RUN



今年で6回目の開催となるスポーツ少年団交流駅伝競走大会が、10月3日にスポーツ・健康の森公園で行われました。秋空が広がるなか開催された同大会には野球やサッカー、ソフトテニスなどのスポーツ活動を行う市内18スポーツ少年団から276人が参加。66チームに分かれてそのタイムが競われました。大会に参加した子どもたちは、1チーム4人でタスキをつなぎ、保護者や指導者などが見守るなか、懸命な表情で力いっぱいコースを駆け抜けました。

過去最高の3547人がエントリー



スポーツ・健康の森公園を発着点とする「滑川ほたるいかマラソン」が10月11日に開催されました。ゲストランナーに、東洋大学陸上競技部・女子長距離部門の選手を迎えて開催された今大会には、エンジョイ・ランニング、3km、5km、10km、ハーフマラソンの5つの部に34都道府県から過去最高となる3,547人がエントリー。1歳から84歳まで、幅広い年齢層のランナーが沿道からの声援を受けながら市内を駆け抜け、爽やかな汗を流しました。

スポーツの秋を楽しもう



「ほたるいかマラソン」の開催を前に10月10日、東洋大学陸上競技部・女子長距離部門の選手らによるランニング教室がスポーツ・健康の森公園で行われ、マラソンにエントリーしたランナー約130人が参加しました。参加者らは、普段から同競技部の選手が実践しているストレッチや体幹トレーニングの方法などを学んだほか、選手に対する質問の時間では、大会前の緊張のほぐし方など、メンタル面に関する質問なども行われ、翌日に開催されるマラソンで、良い記録を出すために必要なノウハウを学んでいました。

メダリストによるスポーツ講演



10月13日、シンクロナイズドスイミング競技・日本代表として、シドニー・アテネ五輪で銀メダルを獲得した武田美保さんを講師に迎え、滑川・早月中学校でスポーツ講演会が行われました。「夢を追いかけて」と題してスタートした講演では、武田さんのシンクロナイズドスイミングとの出会いをはじめ、幼い頃に描いた五輪出場への夢や、その夢を実現するためにビジョンを描く大切さ、恩師との出会いなどが紹介され、講演が終わると会場からは、大きな拍手がおこられました。